日本人染色家によるワークショップ及び展示会の開催

2026 年 10 月、「日本の美の真髄：伝統染めの技術」展及び染色ワークショップの実施のために、文化庁の交流大使を務めたこともある、自然の材料を使う染織家、時友尚子氏がタジキスタンを訪問しました。10 月 15 日、タジキスタン民族学博物館で時友氏の染色作品の展覧会の開会式が行われ、タジキスタン政府や文化関係者、外交団代表などが出席しました（展覧会は 11 月 24 日まで開催）。

開会式の挨拶で古田恵子大使は、本作品展が、タジキスタンの人々にとって、着物等の日本伝統文化の一端を知る良い機会となることを強調するとともに、両国の相互理解及び友好関係の促進に繋がることに期待を表明しました。





タジキスタン側からは、アフマドジョン・ムロドゾダ国立科学アカデミー歴史・考古学・民族学研究所長が挨拶しました。

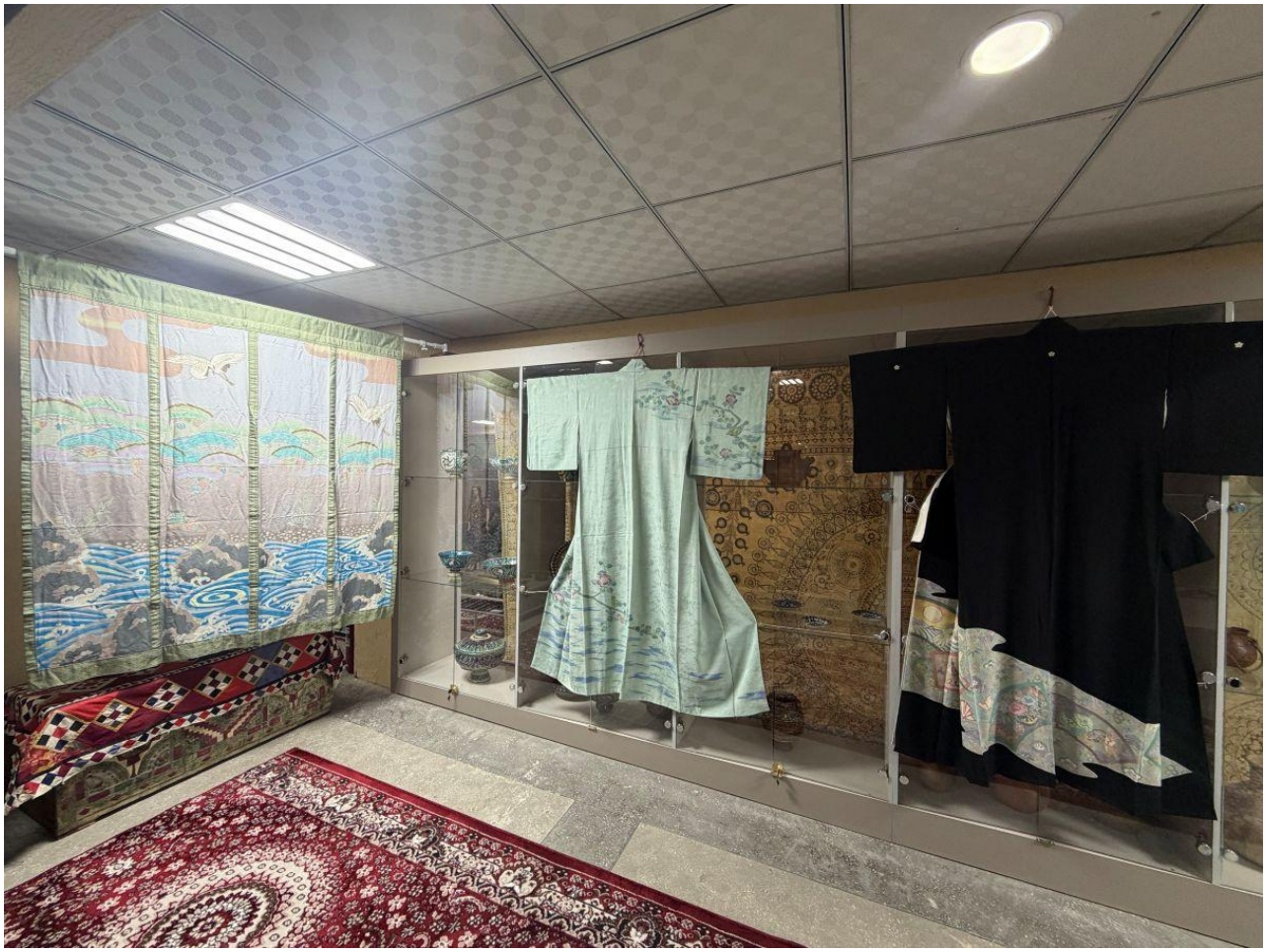




開会式の後、出席者は博物館の展示スペースに移動し、そこで作品展オープンのテープカットが行われました。







10 月 16 日と 17 日、タジキスタンで類似の絞り染め技術（Gulband）の伝統が残るクリャブ市の郷土歴史博物館で、博物館の協力の下、地元の大学生や手工芸従事者を対象にしたワークショップが行われました。







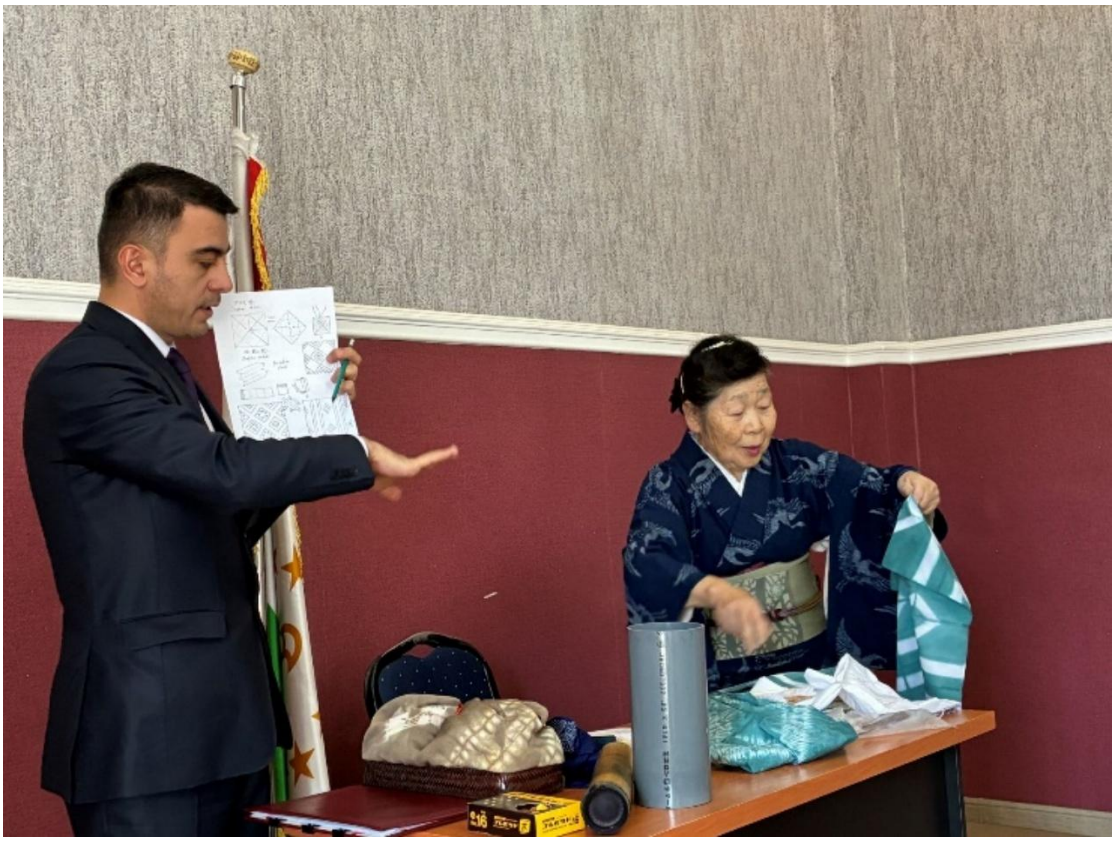
参加者たちは、日本の絞り染め技術を使って自分なりの作品を作る体験を楽しみました。







10 月 19 日、ドゥシャンベ市のタジキスタン国立芸術デザイン大学で、同大学と技術大学で美術及びデザインを専攻する学生たちを対象にした染色ワークショップが行われました。



クリャブ市でのワークショップと同様に、参加者たちは、日本の絞り染め技術を使って自分で作品を作る初体験を楽しみました。







本行事は、日本の伝統工芸を紹介する機会となるとともに、両国の美術関係者の交流の場ともなりました。これをきっかけとして、両国の文化交流が進むこと、タジキスタンの絞り染めの伝統技術（Gulband）が復活することが期待されます。